

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597340029		
法人名	有限会社 長安工業		
事業所名	グループホーム さんぼみち		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村862-2		
自己評価作成日	評価結果市町受理日	令和1年5月7日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の3分の1が100歳の祝いを受けるほど高齢化し、ADLの低下による身体介護が増えているが、新たなステージとらえて職員の研修参加やミーティングの充実を図ることで質を高めようと模索している最中。近隣保育園に出かけたり、季節を楽しむ試み、地域の盆踊りへの参加、月に一度の個別支援等は当ホームのベースとして継続している。日々の食品の買い出し、洗濯たたみ等の家事を個別の意欲や能力をもとに無理のない範囲で行っていただく機会をもうけられるよう支援している。
高齢化、重度化に細やかに対応するため今年度より契約している訪問看護ステーションに運営推進会議に参加していただき関係性をより深め、早めに適切な医療につなげられるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「日常生活にある暮らしの豊かさを大切に」「その人らしい毎日を過ごしていただく」ということを、職員全員で意識付けされ、利用者が重度化しても、日々の生活の中で聴覚、視覚、嗅覚など五感を感じて快適に過ごせるよう支援されています。重度化への取り組みとして、新たに移乗用リフト(レンタル)やリフト式体重計(購入)を導入され、支援の環境整備に力を注がれています。利用者一人ひとりの思いや意向を丁寧に聞きとられ、調理の手伝いや洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、餅つき、誕生会などの日常生活の中での楽しみごとや活躍できる場面づくりをしておられる他、菓子工場や民俗資料館、ペットショップの見学、喫茶店、ファミリーレストラン、回転寿司での外食、フラワーランドや白鳥神社、道の駅へのドライブ、利用者誕生プレゼントの購入するなどバラエティに富んだ個別の支援に努めておられます。食事は、三食とも事業所で調理され、職員が冷蔵庫の食材を確認し、利用者の希望を取り入れて、その日の献立を考えておられます。必要な食材は利用者と一緒に買い物に行き購入され、理湯者と職員は同じテーブルを囲み会話をしながら一緒に食事を楽しんでおられるなど、「食」を楽しむ支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域に根ざした開かれたホームでありたい」「日常生活にある暮らしの豊かさを大切に」「その方らしい毎日を過ごしていただく」と理念を掲げ実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。職員はミーティング時に確認して共有している。利用者が重度化しても、聴覚、視覚、臭覚など五感で生活を感じてもらえるよう質的な支援に心掛け、管理者と職員は理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りなどに参加している。散歩や買い物時に近所の人と会話したり、交流の場面が持てるように努めている。ホームの行事時に地域の方をゲストに招くようにしている。	利用者は、地区の盆踊りや花火大会、地域の保育園のお遊戯会や運動会の予行演習に出かけて地域の人と交流している。中学生の体験学習やボランティア(獅子舞、花壇の世話、掃除)の来訪がある。食材の買い物や散歩に出かけた時に出会う地域の人と挨拶を交わしたり、会話をしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は外部への情報発信の仕方を見直している最中である。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員にて個別に行い、日々のケアについて振り返るツールとしている。しかし項目が多い為、職員の負担になっている側面もある。前年度の家族アンケート冊子を回覧したり、個別面談につなげるようにしている。	職員に評価の意義を説明し、自己評価の書類を職員全員に配布し、記入したものを管理者がまとめている。評価を通して、職員の課題や不安が明確になり、ケアに対する負担の軽減につながっている。前回の外部評価結果をうけて目標達成計画を立て、急変時や事故発生時への対応、災害時の地域との協力体制の構築、内部研修の充実等できることから改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状を報告しつつ、身体拘束や行事等について意見をいただいている。ホームで看取りを行ったご家族に、後日運営推進会議で体験談を話していただいた。	新たに、訪問看護ステーションの看護師が参加して、会議は2か月に1回開催している。事業所の活動や利用者の現状報告、職員体制について、ヒヤリハット・事故報告、身体拘束について、介護報酬改定について、外部評価の報告について説明し、意見交換を行っている。会議に、訪問看護職員の参加を得て、医療面からの助言や研修を実施している他、看取りを行った家族からの体験談を話してもらうなど、会議での意見をサービス向上にいかしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡、相談をしている。	市担当者とは、運営推進会議出席時や月1回の事業所連絡会議参加時に事業所の現状を伝え、更新申請等や事故報告提出時には直接出向いて相談し、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話等で情報交換をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	館内では自由に過ごしていただいている。玄関は日中は無施錠。皮膚の保護のためご家族の了承の上、ミトンを着用して頂いている例があるが必ず書面に書き残すようにしている。	今年度から、身体拘束廃止委員会を設置し、職員は「身体拘束適正化のための指針」を月1回のミーティング時に確認し、ミトンの装着を含め利用者の課題に応じた対応を学び、身体拘束について理解し、拘束をしないケアに努めている。玄関は昼間は施錠しておらず、外出したい利用者があれば、職員と一緒に近所を散策したり、寄り添って気分転換の工夫をしているなど、閉塞感を持たない配慮をしている。スピーチロックについては、気になる言動に対しては管理者が助言・指導している。ドラッグロックに対しては、職員間でも話し合い、減薬について主治医とも相談している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束についてミーティングで学んだ際に再度虐待についても触れ、あつてはならないと全員で確認した。言葉遣いの乱れ等、虐待につながることは継続して確認していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は各制度について研修等で理解している。現在は制度につなげる必要がある方がおられないが、機会があれば職員の学びとともに支援につなげるようにしたいと考える。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	体制、処理手続きを定め周知している。要望、苦情についてはミーティングにて職員で振り返り再発防止に努めている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議参加時、事業所行事(敬老会、誕生会)への参加時、ケアプラン作成時、電話、メール等で家族からの意見や要望等を聞いている。面会時には、家族が意見や要望をしやすい雰囲気づくりに努めている。今年度は、事業所の10周年記念行事開催時に家族の参加を得て、会食や和やかな歓談の場を設けている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見を出し合い、日々のケアに活かすようにしている。夜間のミーティングにでられないパートのための昼間のミーティングも開始した。	月1回のミーティングや朝の申し送り、カンファレンスの中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、個人面談以外にも、職員に直接声をかけるなど意見をしやすい環境を整えている。職員からは、勤務体制の変更や利用者のQOL環境への工夫などの提案があり、移乗用リフト(レンタル)とリフト式体重計(購入)を導入しているなど、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は法人の代表でホームの責任者である。管理者が日々のケアの中で職員の努力や実績、勤務状況を把握している。休みが希望通りに取れたり、学ぶ機会があったり、と働きやすい環境になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は法人の代表でホームの責任者である。管理者は日々のケアの中で、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、できるだけ外部研修等に参加できるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として参加できる機会を設けている。今年度は、実践者研修、実務者研修、初任者研修、施設ケアマネジメント研修等に参加し、研修後はミーティング時に復命し、資料は閲覧できるようにしている。内部研修として、身体拘束防止、緊急時の対応など個別の課題に合わせて学習している。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はサービス事業者連絡協議会の役員を務めている。職員は研修の一環として他事業所への見学に行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安感が少なくなるよう話をしっかり傾聴し、笑顔で対応し、安心していただけるよう心がけている。 ご家族や御本人との会話の中から、安心して頂ける支援の方法につながるような情報を得るようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に複数回面談し、過去の出来事や疾患、希望等について詳しく伺っている。入居後数日は御本人のご様子を報告し、不安が軽減できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時のヒアリング次第では、他施設紹介や在宅サービス利用等についてお話することもある。入居の段階では申込み時より時間があいている場合は再度詳しい聞き取りを行い、現状にあったサービスの提供に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の高い方の割合が増えているので、一緒に行えることが減っているが、家事を共にすることが可能な方は行い、こまめに感謝の気持ちを伝えて良好な関係性の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に一度は家族も参加できる行事を企画し、運営推進会議にも毎回すべての家族に案内を出している。面会は居室でもリビングでも自由に選択可能で、電話やメール等で日常のご様子をお伝えし、ともに支えていく関係を築くようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加、地域のスーパーへの買い出しなどを続けることで馴染みの方や場所との縁が切れないよう心掛けている。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人などの来訪がある他、昔からよく通っていた神社や八幡様へのお参り、馴染みのスーパーでの買い物、一時帰宅に出かけている。家族の協力を得ての墓参り、法事への参加、美容院の利用、外食、自宅周辺の散策など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や体調等を職員がよく観察し、利用者間でコミュニケーションをとりながら笑顔で穏やかな時間を過ごせるよう支援している。個々の会話が成立しないことが多いが、職員が間に立って配慮、支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	引き続き行事や運営推進会議の企画等でご協力いただけるよう、依頼、了解を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や発語、意思表示が難しい方が多く、読み取りが困難な場面が多いが表情や反応から快不快を読み取り、本人本位のサービスが提供できるよう心掛けている。	事業独自の様式で年1回アセスメントをしている他、日々の関わりの中での利用者の行動、表情、会話をケース記録に記録し、思いや意向を把握するよう努めている。会話や発語、意思表示が困難な利用者の場合は利用者の表情や反応から利用者の思いを推し量っている他、家族から聞き取って職員間で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に管理者、ケアマネジャー揃って複数回面会し、御本人、ご家族から聞き取りを行っている。聞き取り内容を文書に起こしたり、直接申し送るなどで職員共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態は職員が個人記録に細かく記録し、職員全員で把握、共有できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人よりの聞き取りや毎日のご様子から、楽しくすごしていただける様に計画書を作成している。ご家族からも要望を伺うようにしている。職員にはミーティング時に報告している。	月1回のミーティングで利用者のケア内容を検討し、計画作成担当者を中心に、利用者や家族からの要望、主治医、訪問看護師からの意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1年毎にモニタリングを実施し、見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	重度化に伴い、食事量や体重の変化に注視する必要性が高まったため、担当を決めてミーティングで報告するようにしている。他にもQOLの向上につながる発見なども担当制を導入して試みている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	365日24時間の生活を支えるためにはおのずと多機能化する。(生活援助、身体介護、楽しみごとの支援、外出の支援、受診、会話やともに行う作業、認知症の周辺症状に対するケアなど) 臨機応変に、柔軟に支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子どもが好きな方が多いので近所の保育園と交流をもち、発表会や運動会の予行練習を見学させてもらっている。理美容や外食、買い物などで地域にでる機会を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>長年、診て頂いたかかりつけの先生が相次いで訪問診療を止められたが、ご家族と相談して新たなかかりつけ医につなげることができた。</p>	<p>事業所の協力医療機関を含め、利用者や家族が希望する医療機関がかかりつけ医となっている。協力医療機関からは月1回もしくは2回の訪問診療があり、その他の医療機関には、家族の協力を得て受診の支援をしている。歯科については、希望により、口腔ケアなどの訪問診療を行っている。受診時には、利用者の状態の記録を持参して医師に情報を提供し、受診後は、家族に電話やメールで結果を伝えている。週1回訪問看護を活用し、利用者の健康管理と健康相談を行っている。夜間や緊急時は、管理者を通して協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回、訪問看護師による健康チェックと職員からの相談をしている。24時間体制で電話相談でき、急変時等の助言を得るなど医療との橋渡しをしてもらっている。看取りケアに際しても家族、職員への情報提供も含め、多くの支援を受けている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、情報提供書にて日頃の生活上のご様子をお知らせしている。入院中はこまめに面会し、家族、病院関係者と情報交換をして、復帰の希望があればそこに向けての支援を行っている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取りの説明も行っているが、現在は計画書の確認時には現時点での終末期ケアについての家族の方針を確認するようになっている。</p> <p>実際の終末期のケアでは管理者、ご家族、訪問看護ステーション、主治医と話し合いをし、希望に添えるよう職員で共有し支援した。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、指針に基づき、事業所でできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族やかかりつけ医、訪問看護師と相談し、入所施設や医療機関の移設を含めて、結果に応じた方針を全員で決めて共有し、支援に努めている。看取りの支援も行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には検証を細かく行い報告書を作成してミーティングでもとりあげ再発防止に努めている。行方不明、転落事故が発生したが、迅速な対応を取ることができたと思う。今後のために再度マニュアルの見直しや訓練を行っていきたいと思っている。	発生の都度、ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、その日の出勤者で話し合い、管理者に報告した後、他の職員には記録を回覧して共有している。月1回のミーティングで再発防止について検討し、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。緊急時の対応については、マニュアルに従って、利用者一人ひとりの状況に合わせて日常業務の中で学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	入居者も参加しての訓練が難しくなり、十分に行えていない。新入社員の加入や新しい入居者の受け入れも落ち着いたので再度全体で訓練と見直しを行う予定である。	消防署の協力を得て、年2回機器点検に合わせて火災通報訓練を実施している。津波時は、近隣の保育園に避難すること、地震や水害時は事業所に留まることなど、それぞれの確認を行い、職員は災害時の通信手段や避難経路、避難時間を確認するなど災害時に備えている。備蓄の缶詰や飲料水などの食料品や防災用具は確保しており、定期的に更新している。	・災害時における避難訓練の実施
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した対応を目指しているが、第三者からすれば疑問をもたれかねないシーンもあるので注意していく。ただし伝わりやすさを優先したり対等の言葉遣いがベターの場合もあるのも事実であり、ご家族と話し合ってケアにつなげたいと考える。	利用者一人ひとりのプライバシーや誇りを尊重し、人生の先輩として接し、尊厳を傷つけない言葉かけや対応に努めている。気になる対応については、ミーティングで話し合っている他、管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しい方が増え、これまでの様子から、ご本人本位を推測で職員が決めることが増えている。希望の表出や自己決定についての働きかけについて改善の余地があると自覚し、課題ととらえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を厳密に決めてはいないが、完全介助かつ転落転倒の可能性がある方が増え、全体のペースに合わせていただく現状となっている。ただ、互いに顔を合わせての食事を望まれている様子もあり、大きく外れているとは考えていない。自室でゆっくりしたい方は引き留めず見守りをしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に整容の支援を行っている。 気候やTPOに合わせて着ていただくよう支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が台所にいると「今日は何のごちそう？」と楽しみにされている様子も伺える。食事中は職員も一緒に食べ、「おいしいですよ。」と声かけて食が進むようにしている。嚥下の状態等で介護食品が適していると思われる場合は取り入れて不足のないようにしている。	三食とも事業所で食事づくりをしている。毎日、肉や魚、野菜など栄養バランスを考えた上で利用者に何を食べたいかを聞いてその日の献立を立てている。必要な食材は利用者と一緒に買い物に行き購入し、畑で採れた野菜や差し入れの物を利用している。利用者は、職員と一緒に野菜の下ごしらえやテーブル拭き、下膳、食器拭きなど出来ることをしている。利用者と職員は、同じ食卓でテーブルを囲み会話をしながら共に食事を楽しんでいる。利用者の状態によっては、副菜の材料や柔らかいおやつなどは業者に注文し、提供している。季節に応じた行事食(節分、クリスマス、敬老会)やおやつづくり、個別支援として道の駅やファミリーレストランでの食事、喫茶店でのパフェやケーキなどの外食など、食べることを楽しめるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。献立は調理担当の職員が栄養バランスに気をつけるようにしている。夏期は特に水分が不足しないよう、スポーツドリンクをプラスしたり、便秘気味の方には朝の牛乳を追加するなどして工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできない方へは毎回支援し、促せば自力でできる人には促すようにしている。毎食後、行なえるように努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助が必要な方には尿意の訴えのあったときや排泄記録表で排泄パターンを把握し、必要に応じて介助している。 ご自分で尿意を感じトイレに行っても尿漏れがある方は紙パンツを着用されている。適宜着替えを促している。	排泄記録表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行いトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分やヨーグルトを毎日欠かさず、牛乳を飲んでいただくこともある。それでも便秘がちな方には主治医に相談の上、薬で対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員のシフトと安全性を考えると、いつでも入浴可能とはならないが、少なくとも週3～4回は入浴していただけるように支援している。	入浴は、毎日可能で、15時30分から17時30分までの間に、利用者の希望や体調に合わせてゆっくり入浴できるように支援している。他、職員に余裕がある場合には、午前中や午後早目に行くこともある。利用者の状態によりシャワー浴や清拭などで対応している。入浴したくない利用者には、無理強いをせず、時間をずらしたり、声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の様子や健康状態からベッドで日中も休むほうが適切と思われる方は休息を支援しているが、昼夜逆転はみられず、睡眠導入剤もごく一部の方に限られ、減薬になった方もおられる。自力歩行可能な方は、自分のペースで布団に入られるよう見守りしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬情報はファイルに綴じて、いつでも確認できるようにしているが、副作用など薬情報の把握が出来ていない、と自覚している職員もいる。症状の変化があればその都度主治医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などで活躍できる役割を持っていただける方は直接支援に結びついているが、介護度が高く困難な方が多い状況。歌番組で歌を口ずさむ、季節行事を行う、部屋でもラジオをつけて人の声が聞こえて寂しくないようになどの支援をしている。	テレビ(吉本新喜劇、水戸黄門、歌番組)やDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、ぬり絵、折り紙、壁飾りづくり、カラオケ、歌を歌う、風船バレー、洗濯物干し、洗濯物たたみ、買い物で野菜を選ぶ、掃除、食事の手伝い(テーブル拭き、下膳、食器拭き)、花摘み、誕生会など利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくり張り合いのある日々過ごせるよう支援している他、個別の思いや意向を汲み取ったお花づくり、喫茶店でお茶、ケーキを食べる、部屋の模様替えなど個別の支援に努めている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりのその日の希望にそって、まではできていないが、毎日の買物は継続している。夏期や感染症の季節を除いて、月に一回、担当職員がお一人のための時間を作り、行きたい所への外出、したいことの支援などを行っている。	お菓子工場、民俗資料館、ペットショップの見学、フラワーランド、ウエルネスパーク、道の駅、白鳥神社へのドライブ、コンビニ、特産センター、大型ショッピングセンターでの買い物、利用者と誕生日プレゼントの購入など月に1回、利用者一人ひとりの希望に沿った外出支援をしている他、毎日の食材の買い物、散歩、地域の盆踊りへの参加、季節の花見(梅、河津桜、桜、バラ、紫陽花、菖蒲、紅葉)など、家族やボランティアの協力を得ながら出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持しておられる方は無し。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にメッセージを書いた方がおられたので、郵送した。今は電話はなじみがあまりないのか、かけたいという様子もないので重視していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をホーム内外に飾ったり、オープンキッチンでの調理、視界に入るベランダで洗濯物を干す、といった生活感を取り入れている。 一時異食の危険性があり、ホーム内の装飾が限定されたが、今は写真を飾るなどして再開しつつある。	天井の明り取りからの光で明るい共用空間には、季節の花を飾ったテーブルやイス、ソファを配置し、ベランダでは、プランターの花や野菜畑を眺めることができる。厨房スペースからは、食事の準備の音、お茶を入れる香りが漂い、家庭的な雰囲気がある。利用者がいつでも自由に使えるように洗面台の前にはベンチがあり、廊下にはソファが置いてある。室内は、常に適切な温度や湿度、換気にも配慮し、利用者が居心地良く過ごせるような環境が整っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席を覚え、そこに座ることを望まれる方の希望と、気の合う方同士で話ができることの両面から居場所づくりに配慮している。テレビ前のソファでテレビを見てよく寛がれている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや鏡台、コタツなどを持ち込んで使っておられる。ご家族の写真や思い出の品、人形などを飾って居心地の良い空間となるようにしている。	ダンスや衣装ラック、仏壇、テレビ、ラジオ、椅子など使い慣れた馴染みの家具を持ち込み、ぬいぐるみ、家族が話題になった新聞の切り抜き、家族や来訪者との写真、ポスターなどを飾って、利用者の好みに合わせ、その人らしい部屋づくりをして、居心地良く落ち着いて過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の様子がわかりやすいようオープンキッチンである。畳コーナーに腰かけて洗濯物たたみをしていただいている。 自室の表札は職員が考えて、その方がわかりやすいよう工夫して手作りしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームさんぽみち

作成日: 令和 1 年 5 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	外部研修参加について、個人の希望を優先した上でシフトが組める日程の場合、となっていたため、参加者数を増やすことが難しかった。	全員が少しずつ参加できるよう、計画的な研修案内、スケジュールリングを意識して行う。	年間計画として一人一回は外部研修の機会を得るよう個別に話し合って機会獲得に取り組む。	12ヶ月
2	35	誤薬や事故を防ぐための具体的な訓練、研修参加に取り組めずにいた。	内部研修や外部研修、消防署での応急手当の講習などに参加できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修で薬について学べる機会があったので職員一名参加済み(3月) 感染症発生を受けて、ノロウイルス発生時の対応訓練を実施する予定(4月) 通年で機会を逃さず研修や訓練に取り組む 	12ヶ月
3	36	入居者参加での訓練が困難な状況が長く続いている。	運営推進会議の年間計画に盛り込み、季節の良い時に訓練実施する	<ul style="list-style-type: none"> 4月に火災通報訓練、災害時の連絡手段としての171の訓練を実施済。 6月に大津波発生想定で、避難訓練予定 	2ヶ月
4	3	地域貢献の方法について、より効果的で意義のある内容が思いつかずにいる	自事業所だけでなく、地域の事業所間で連携をとったり、情報交換できないか検討する	新年度より地域包括支援センターが認知症対応型の事業所の連絡会を開催することになったので、積極的に参加していく	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。